

# ちょうしづか新聞 第31号

国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳整備事業に伴う試掘調査速報

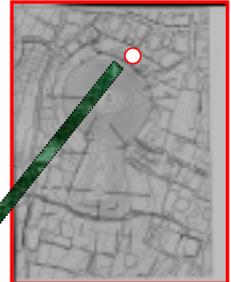
発行日:2005年1月31日(日曜日) 発行:山梨県埋蔵文化財センター資料普及課資料第2担当

## 「木柱」と「木製樹物」は共存したのか？ それが問題なのだ！

第10号トレンチで見つかった「木柱」および「木製樹物(もくせいだてのもの)」については、これまでも何回かお伝えしてきました。では、これらは同時期に「古墳のまつり」等に使われたのでしょうか？この問題については、これから時間をかけて考えていかなければいけません。

### 第10号トレンチで見つかった「木柱」と「木製樹物」の位置関係

第10号トレンチを南西側から見た写真です。



第10号トレンチは後円部の北西側に設定したトレンチです



「木柱」は後円部墳丘端のテラス状平坦面に直径80cm・深さ70cmほどの穴を掘って、埋め込んであるよ。  
「木製樹物」は「木柱」設置後に周溝にたまり始めた土砂の上に乗るように出土しているよ。  
「木柱」も「木製樹物」もその上には墳丘から崩れ落ちてきた菅石をたくさん含む土でパックされているよ。  
これらのことから、少なくとも「木柱」が先に設置されて、その後で「木製樹物」が使われ捨てられたらしいことがわかるんだ。しかも、「木柱の設置」と「木製樹物」が捨てられるまでには、「周溝に一定の土砂がたまる時間差」があるらしいんだよ！  
でも、「木製樹物」が使われたときに「木柱」が立っていたかどうかは今のところ不明だよ。  
例えば、「木製樹物」が使われたときにはすでに「木柱」の上部はなくなっていた。  
「木製樹物」が使われたときにも「木柱」は立っていて、両者同時に要らなくなった。  
などなどいろんなパターンが考えられるね。このあたりの問題は、この「木柱」や「木製樹物」がどんな用途だったのかなど他の古墳で見つかった事例などを十分に検討していかないといいないんだ。でも、上の写真のような平面的な位置関係(どんな広がりなのか)や層位的関係(モノが出て来たり遺構が見つかった土層の差)が発掘現場で確認されたことは今回の大きな成果のひとつなんだ。銚子塚古墳は山梨だけじゃなくて、全国の古墳のことを考える重要なデータを持った古墳だってことさ！

【連絡先】山梨県埋蔵文化財センター 資料普及課資料第2担当(森原・森屋)  
〒400 1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 電話055 266 3016 ファックス055 266 3882  
e-mail morihara-thb@pref.yamanashi.lg.jp



この「ちょうしづか新聞」は山梨県埋蔵文化財センターのホームページでフルカラー版を公開中です。  
今まで発行したバックナンバーもすべて閲覧できますので、一度アクセスしてみてください。

URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm>